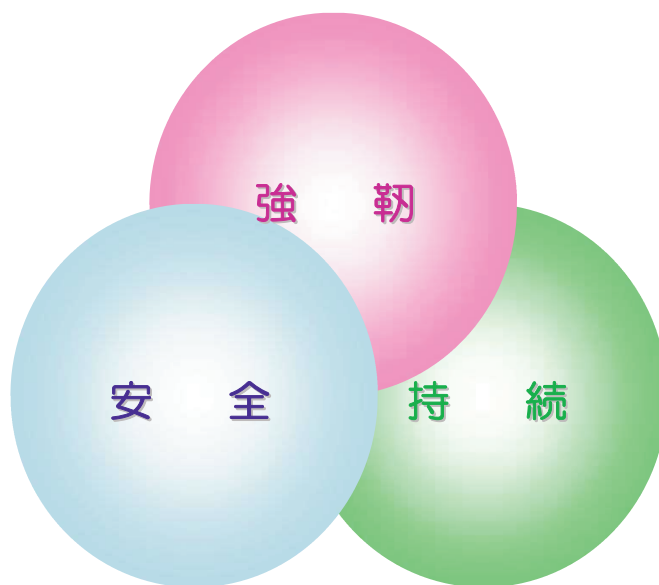


# 新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～

## 前期実施計画（平成28年度）の取り組み状況

概要版



平成29年9月

新潟市水道局

# 目次

趣旨、事業評価概要・・・P2

事業・取り組み担当課1次評価結果一覧・・・P3

1次評価結果概要・・・P4～P5

2次評価結果概要・・・P6

事業・取り組みの実施状況・・・P7～P10

重点目標の推移・・・P11～13



平成28年度の評価結果、  
取り組み状況を報告します。

水太郎

## 趣旨

本市では、平成27年3月に将来にわたって「すべてのお客さまに信頼される水道」を基本理念とした、「新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～」(平成27年度～平成36年度)を策定し、事業を推進しています。また、目指す方向性実現のため、具体的な事業・取り組みと、財政計画などを定めた「新・マスタープラン実施計画」(計画期間：前期3年、中期3年、後期4年)を策定し、毎年度行う事業評価の結果を踏まえ、今後の事業に活用していくこととしています。

## 事業評価の概要

「新・マスタープラン前期実施計画」は、3つの方向性「安全」「強靱」「持続」を実現するために、8つの施策を設け、31の「事業取り組み」を行っています。評価については、1次評価は所管課で「事業取り組み」ごとに、効率性、有効性の評価をし、2次評価は外部機関の水道事業経営審議会で次年度以降の方向性を評価します。

### 1次評価

#### 効率性総合評価

効率性 A	・・・ 非常に高い
効率性 B	・・・ 高い
効率性 C	・・・ 普通
効率性 D	・・・ 低い
効率性 E	・・・ 非常に低い

#### 有効性総合評価

有効性 A	・・・ 非常に高い
有効性 B	・・・ 高い
有効性 C	・・・ 普通
有効性 D	・・・ 低い
有効性 E	・・・ 非常に低い

### 2次評価

#### 方向性総合評価

拡充	・・・ 今まで以上に力を入れて事業に取り組むことが適当
維持	・・・ 今までどおり事業に取り組むことが適当
終了(完了)	・・・ 事業・取り組みは終了した
改善・見直し	・・・ 事業内容の改善や見直しを検討し取り組むことが適当
縮小	・・・ 事業の取り組み規模を縮小することが適当

事業・取り組み担当課・1次評価結果一覧

方向性	施策	事業・取り組み	担当課	効率性	有効性	
安全でおいしい水道水の供給 《安全》	Ⅰ 水質管理の充実・強化	Ⅰ-1 水源水質の監視	水質管理課	C	C	
		Ⅰ-2 水安全計画の充実・適切な運用	水質管理課	C	C	
		Ⅰ-3 水質管理体制の強化	水質管理課	C	C	
		Ⅰ-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	水質管理課 (浄水課)	B	C	
		Ⅰ-5 分かりやすい水質情報の提供	水質管理課	B	A	
	Ⅱ 給水装置における 水質保持	Ⅱ-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	管路課	C	C	
		Ⅱ-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	管路課	C	B	
		Ⅱ-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	管路課	C	C	
強靱な施設・体制による給水確保 《強靱》	Ⅲ 水道施設の計画的更新	Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新	計画整備課	C	C	
		Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	計画整備課	D	C	
		Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新	管路課	B	A	
	Ⅳ 災害対策・体制の強化	Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	計画整備課	C	C	
		Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	計画整備課	D	C	
		Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	計画整備課	B	A	
		Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	管路課	C	C	
		Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	管路課	A	A	
		Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	経営管理課	B	C	
	環境の変化に柔軟に対応した 健全な事業運営の持続 《持続》	Ⅴ 経営基盤の強化	Ⅴ-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	計画整備課	C	C
			Ⅴ-2 定員・給与の適正化	総務課	C	B
			Ⅴ-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	営業課	C	C
Ⅴ-4 遊休資産の有効活用			経営管理課	C	E	
Ⅴ-5 時代に即した料金制度等の検討・実施			経営管理課	C	C	
Ⅴ-6 水道事業経営審議会の効果的運用			経営管理課	C	C	
Ⅵ 積極的な情報提供と お客さまニーズの把握		Ⅵ-1 戦略的な広報の実施	総務課	C	B	
		Ⅵ-2 お客さまの意見・要望の把握	総務課	B	C	
		Ⅵ-3 分かりやすい経営情報の開示	経営管理課	B	C	
		Ⅵ-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	経営管理課	B	C	
Ⅶ 技術・知識を有する 人材の確保と育成		Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化	総務課	B	B	
		Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流	総務課	C	B	
Ⅷ 環境に配慮した事業運営		Ⅷ-1 建設副産物の再利用促進	技術管理室	C	B	
		Ⅷ-2 水道局環境計画の策定と推進	経営管理課	C	C	

# 1次評価結果の概要

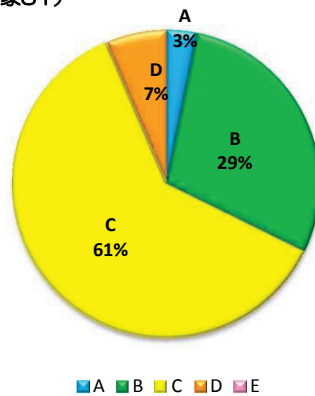
## 1. 1次評価結果の集計

### (1) 効率性評価

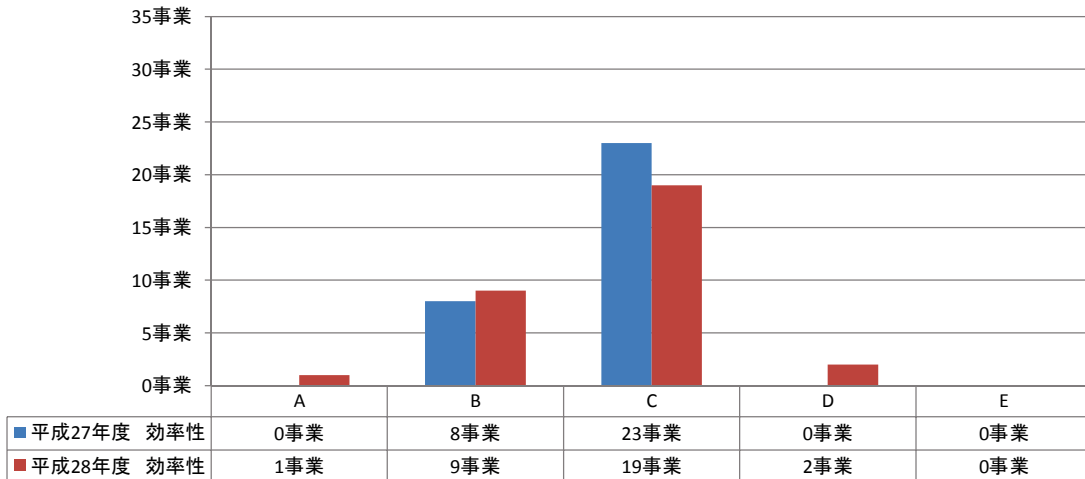
評価値	事業数	備考
A	1事業	Ⅳ-5大ブロック間の相互連絡管の整備
B	9事業	
C	19事業	
D	2事業	Ⅲ-2管路施設の計画的更新 Ⅳ-2管路施設の計画的耐震化
E	0事業	
計	31事業	

効率性評価は、当該事業・取組みが、コストに見合った結果が出ているか、実施手段が効率的であったか評価するものです。評価全体では、評価点9～10点の「A非常に高い」評価事業は1事業、3%、7～8点の「B高い」評価事業は9事業、29%、評価点5～6点の「C普通」評価事業は19事業、61%、3～4点の「D低い」評価事業は2事業、7%でした。外的要因などによる「D低い」評価があるものの、31事業中28事業、90%の事業が効率性の目標を達成しました。

効率性評価結果割合  
(評価対象31)



## 効率性評価結果の経年変化

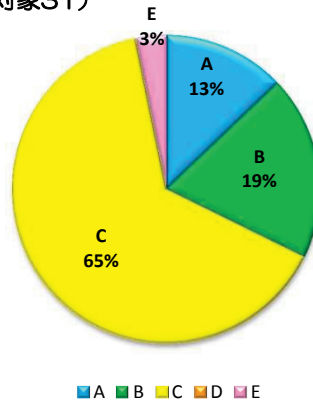


(2)有効性評価

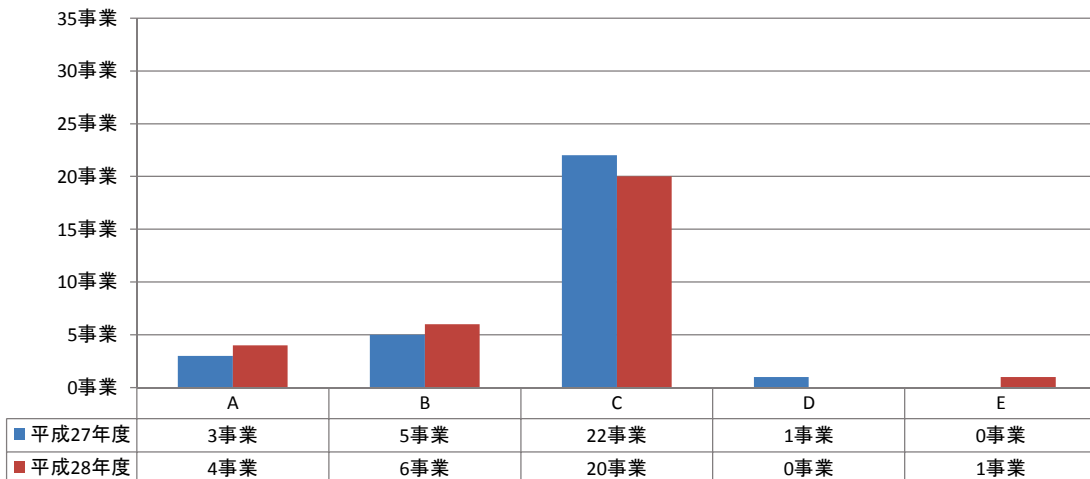
評価値	事業数	備考
A	4事業	I-5分かりやすい水質情報の提供 Ⅲ-3鉛給水管の計画的更新 IV-3重要施設向け配水管の耐震化 IV-5大ブロック間の相互連絡管の整備
B	6事業	
C	20事業	
D	0事業	
E	1事業	V-4遊休資産の有効活用
計	31事業	

有効性評価は、重点目標等を達成するために有効であったか、期待する結果・効果（成果）は得られたか評価するものです。有効性総合評価の結果は、評価9～10点の「A非常に高い」評価事業は4事業、7～8点の「B高い」評価事業は6事業を合わせると10事業、32%でした。5～6点の「C普通」評価事業は20事業、65%、3～4点の「E非常に低い」評価事業は1事業、3%でした。31事業中30事業、97%の事業が有効性の目標を達成しました。

有効性評価結果割合  
(評価対象31)



有効性評価結果の経年変化



## 2次評価結果の概要

### 1. 2次評価結果の目的

「すべてのお客さまに信頼される水道」であるためには、お客さまの視点として、外部機関である水道事業経営審議会で、各事業取り組みの実施状況、目標の達成度などを確認したうえで、効率性、有効性、についての評価を受け、今後の方向性を明確にしていくことを目的としています。

### 2. 2次評価結果の集計

評価値	拡充	維持	終了（完了）	改善・見直し	縮小	計
事業数		28事業		3事業 Ⅲ-2 Ⅳ-2 Ⅴ-4		31事業

### 3. 改善・見直しとした事業

事業・取り組み		効率性 評価	有効性 評価	経営審議会総評	所管課
Ⅲ-2	管路施設の計画的更新	D	C	管路の計画的更新は、耐震化や有収率向上対策につながる事業でもある。工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分を見直し、配水支管更新の事業費の一部を、基幹管路更新へ充当したことは、限られた財源の中でやむを得ないと思われる。厳しい財政事情の中ではあるが、より効率性を追求し早期更新が可能となるよう努めること。	計画整備課
Ⅳ-2	管路施設の計画的耐震化	D	C	大規模地震発生に備え、耐震化の推進に努めること。工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分を見直し、配水支管更新の事業費の一部を、基幹管路更新へ充当したことは、限られた財源の中でやむを得ないと思われる。厳しい財政事情の中ではあるが、より効率性を追求し早期更新が可能となるよう努めること。	計画整備課
Ⅴ-4	遊休資産の有効活用	C	E	遊休資産の有効活用は、経営基盤の強化を図るために有効な事業である。今まで以上に売却も含めた施設の有効活用実施に向けた検討を進め、新たな収入源確保に努めること。	経営管理課

# 事業・取り組みの実施状況

## 安全でおいしい水道水の供給

すべてのお客さまに、いつでもどこでも、安全でおいしい水道水を供給する水道を目指します。

### 施策Ⅰ 水質管理の充実・強化

#### 主な取り組み

- I-1 水源水質の監視  
 ・水源の監視及び調査の実施  
 I-2 水安全計画の充実・適切な運用  
 ・水安全計画の評価・見直しの実施  
 I-3 水質管理体制の強化  
 ・水道GLPの維持・更新  
 ・人材育成及び技術継承

- I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理  
 ・独自管理目標値による水質管理  
 I-5 分かりやすい水質情報の提供  
 ・啓発活動の継続  
 ・分かりやすい情報提供

I-1 水源水質の監視	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
河川水質事故による水道水の影響		0%	0%
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
水道原水の水質調査		2回・4回	2回・4回
浄水施設での対応が困難な物質の監視		4回・8回	4回・8回

I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
農業濃度管理目標達成率		100%	100%
総トリハロメタン濃度管理目標達成率		100%	100%
残留塩素管理目標達成率		91%	90%
臭気強度管理目標達成率		100%	100%

I-2 水安全計画の充実・適切な運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
浄水場「水安全計画」の評価実施率		100%	100%

I-5 分かりやすい水質情報の提供	評価結果	効率性 B	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
さわやかトーク宅配便等年間実施数		10回・20回	14回・32回

I-3 水質管理体制の強化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
検査機器の保守点検実施率		100%	100%
教育訓練実施率		100%	100%
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
水質検査の公表回数		12回・24回	12回・24回



### 施策Ⅱ 給水装置における水質保持

#### 主な取り組み

- II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化  
 ・教育委員会との協議  
 II-2 受水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施  
 ・貯水槽清掃強化月間の設定のための協議  
 ・民間清掃会社との協体制構築に向けた関係機関との協議  
 ・貯水槽施設衛生管理指導業務の委託

- II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上  
 ・受講未連絡の業者に対し講習会参加を要請  
 ・適切な施工確保のため、講習内容を見直し実施  
 ・指定給水装置工事事業者の表彰実施  
 ・熊本地震への復旧支援に対し、特別表彰を実施

II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
学校施設の水飲み水栓の直結給水化率		63.7%・63.7%	63.7%・63.7%

II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
給水装置に係る事故件数		0件	0件
指定給水装置工事事業者講習会参加率		74.2%	80.1%
指定給水装置工事事業者の表彰実施		実施	実施

II-2 受水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
貯水槽清掃実施率（簡易専用水道）		92.9%	96.9%
貯水槽清掃実施率（小規模貯水槽水道）		65.6%	72.1%
貯水槽清掃実施率（全体清掃率）		76.6%	82.3%



# 強靱な施設・体制による給水の確保

自然災害等による被災を最小限にとどめ、断水等が発生した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道を目指します。

## 施策Ⅲ 水道施設の計画的更新

### 主な取組み

#### Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新

- 阿賀野川浄水場整備事業
  - ポンプ場築造工事の実施（平成29年度完了予定）
  - 電気設備更新工事の実施（平成31年度完了予定）
  - 自家発電設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
  - 監視制御設備更新工事の実施（平成31年度完了予定）
  - ポンプ設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
- 配水場整備事業
  - 内野配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成29年度完了予定）
  - 竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
  - 経年劣化した設備の個別整備

#### Ⅲ-2 管路施設の計画的更新

- 基幹管路更新
- 配水支管更新

#### Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新

- 小口径老朽管更新（ガス工事競合）
- 小口径老朽管更新（局単独工事）
- 他工事に関連する鉛給水管更新（下水道工事等）
- 連合鉛給水管更新
- 鉛給水管更新（戸別）

Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
阿賀野川浄水場整備事業		実施	実施
配水場整備事業		実施	実施

Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	評価結果	効率性 D	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
基幹管路更新延長		4,900m	4,190m（見込み）
※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		9,800m	9,060m（見込み）
配水支管更新延長		26,500m	16,941m（見込み）
※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		49,200m	34,983m（見込み）



Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新	評価結果	効率性 B	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
鉛給水管率		7.0%・7.0%	6.3%・6.3%

## 施策Ⅳ 震災対策・体制の強化

### 主な取組み

#### Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化

- 耐震補強実施【土木構造物】
  - 阿賀野川浄水場構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施（平成31年度完了予定）
  - 阿賀野川沈砂池耐震補強の実施（平成29年度完了予定）
  - 青山向け導水管サージタンク転倒対策工事実施設計業務の実施

#### Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化

- 基幹管路更新事業・配水支管更新事業に併せ管路施設の耐震化を実施

#### Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化

- 計画に基づき重要施設向け配水管の耐震化を実施（行政機関：2施設 医療機関1施設）

#### Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進

- 基幹管路整備に併せた小ブロックの構築（小ブロック構築数1ブロック）

#### Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備

- 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備

#### Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化

- 各種災害マニュアル類の見直し
- 戸頭浄水場の住民用応急給水設備の整備完了
- 災害時の協力体制および連携体制の拡充
  - 他団体との災害時応援協定の締結（地方公共団体等1件、民間団体等2件）
  - 応急給水訓練実施（南区2箇所、江南区1箇所）

Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
【建築物】（完了数／全計画数）		—	—
【土木構造物】（完了数／全計画数）		1／13 2施設	2／13 2施設

Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
小ブロック構築率		84.4%・84.4%	81.5%・81.5%

Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 D	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
管路耐震適合率		67.7%	67.6%（見込み）
※算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用		67.7%	67.6%（見込み）
基幹管路耐震適合率		61.0%	61.2%（見込み）
※算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用		61.0%	61.2%（見込み）

Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	評価結果	効率性 A	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
相互連絡管整備延長		450m・1,560m	530m・1,604.8m

Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	評価結果	効率性 B	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
重要施設向け配水管の耐震化		2施設	3施設（見込み）
※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		5施設	6施設（見込み）

Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
各種マニュアルの作成・見直し		実施	実施
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
給水車用常設注水設備の整備		—	—
住民用応急給水設備の整備		1箇所（戸頭） 2箇所	1箇所（戸頭） 2箇所

# 環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。

## 施策V 経営基盤の強化

### 主な取組み

- V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理
- ・中長期的な更新需要の見直し
  - ・施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備
- V-2 定員・給与の適正化
- ・定員の適正化・・・平成29年度より委託する水道料金等収納業務について業務分析を実施。新設調査業務を委託化し、適正な人員を削減
  - ・給与の適正化・・・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施
- V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施
- ・公募型プロポーザル方式により業者を選定し委託契約、29年度からの運用に向けた、委託契約業者との業務引き継ぎ準備

- V-4 遊休資産の有効活用
- ・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の実施
- V-5 時代に即した料金制度の検討・実施
- ・料金体系の調査研究、料金制度等の現状と課題の整理
- V-6 水道事業経営審議会の効果的運用
- ・水道事業経営審議会開催（2回/年）
  - ・新・マスタープランの事務事業に対する2次評価の実施



V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
更新計画の見直し		—	一部実施
施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備		実施	実施

V-4 遊休資産の有効活用	評価結果	効率性 C	有効性 E
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
有効活用の実施・協議・調整等累計施設数		1施設 ・ 4施設以上	0施設 ・ 4施設以上

V-2 定員・給与の適正化	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
職員数（年度末職員数≦職員定数）		346人	337人

V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
「水道料金算定要領」に基づく料金シミュレーション（調査研究）		実施	実施

V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
水道料金等収納業務委託の実施（準備・業者選定）		実施	実施

V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
新・マスタープラン事業実施状況に対する意見・提言の聴取と反映		実施	実施

## 施策VI 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握

### 主な取組み

- VI-1 戦略的な広報の実施
- ・独自イベント・・・施設見学など
  - ・お客さまに直接働きかける広報・・・災害パネル展示、出前講座など
  - ・デジタルメディアを活用する広報・・・ホームページなど
  - ・紙媒体による広報・・・広報紙、検針票裏面など
  - ・漫画を活用する広報・・・小学生向けパンフレット、工事看板など
- VI-2 お客さまの意見・要望の把握
- ・一般家庭向けのお客さまアンケートを実施
  - ・水道モニター制度の運用

- VI-3 分かりやすい経営情報の開示
- ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供・・・ホームページで公表
  - ・経営効率化に関する取り組み情報の提供・・・広報紙「水先案内」に掲載
- VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供
- ・保管管理、検査、有効利用、情報提供を継続的に実施

VI-1 戦略的な広報の実施	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケートにおける広報紙「水先案内」の認知度		64%	72%
「新潟市水道局広報戦略」に基づく効果的な広報の実施※		実施	実施

VI-3 分かりやすい経営情報の開示	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	1回/年以上
経営効率化に関する取り組み情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	1回/年以上

VI-2 お客さまの意見・要望の把握	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケートの実施		実施	実施
水道モニター活動回数（モニター会議、施設見学会等開催数）		5回	4回

VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
汚泥保管施設における放射線量測定結果の情報開示の継続		開示	実施
放射性物質濃度の分析調査結果の情報開示の継続		開示	実施

## 施策Ⅶ 技術・知識を有する人材の確保と育成

### 主な取組み

- Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化
- ・技術系新規採用職員の独自採用、教育配転の実施
  - ・職員研修基本計画の見直し実施
  - ・各種研修は研修計画に基づき継続的に実施
  - ・水道研修センターの効果的運用

- Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流
- ・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加

Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化	評価結果	効率性 B	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
年間内部研修実施時間 (延べ年間研修時間/年度末職員数)		15.2時間	15.6時間

Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
国際研修等への参加人数		2人・4人	2人・9人

## 施策Ⅷ 環境に配慮した事業運営

### 主な取組み

- Ⅶ-1 建設副産物の再利用促進
- ・改良土の利用促進
  - 建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化（再生率100%）
  - 建設発生土について、埋戻しに適する発生土は再利用し、適さない発生土は再生プラントへの搬入が可能であれば改良し、再利用（再生率17.4%）

- Ⅶ-2 水道局環境計画の策定と推進
- ・環境計画の運用
  - ・環境会計の作成・公表
  - ・省エネルギー対策の推進・・・満願寺浄水場の天日乾燥床整備事業完了、戸頭浄水場LED照明導入

Ⅶ-1 建設副産物の再利用促進	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
建設副産物のリサイクル率		37.7%	37.9%

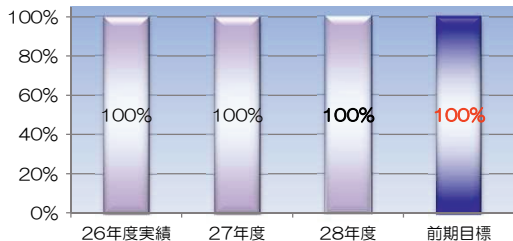
Ⅶ-2 水道局環境計画の策定と推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
水道局環境計画の策定・運用		実施	実施
環境会計の作成・公表		実施	実施



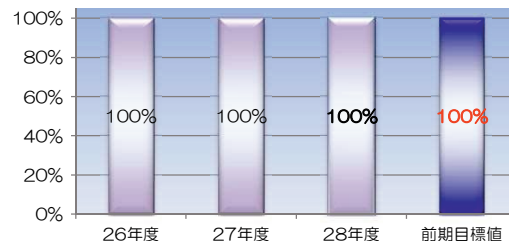
## 重点目標の推移

### ■安全でおいしい水道水の供給

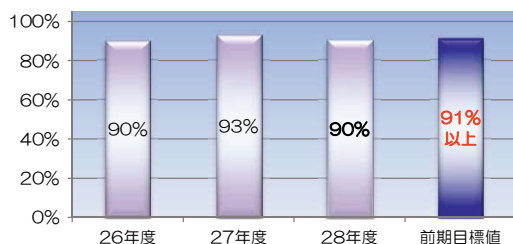
・農薬濃度管理目標達成率



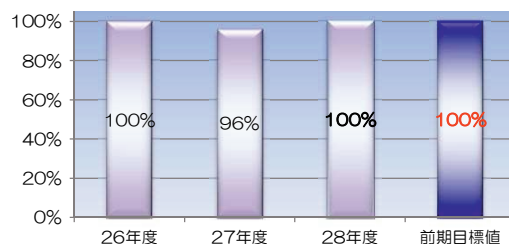
・総トリハロメタン濃度管理目標達成率



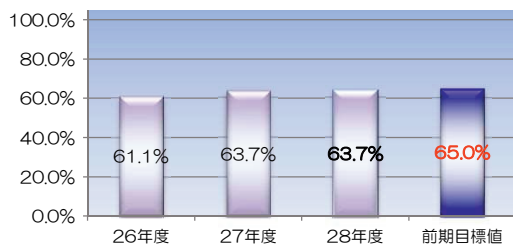
・残留塩素管理目標達成率



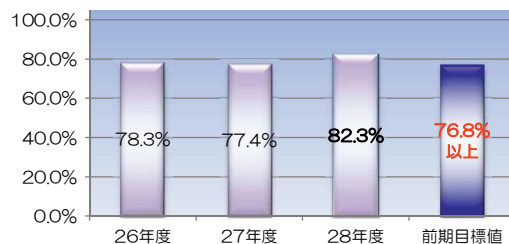
・臭気強度管理目標達成率



・学校施設水飲み水栓の直結給水化率

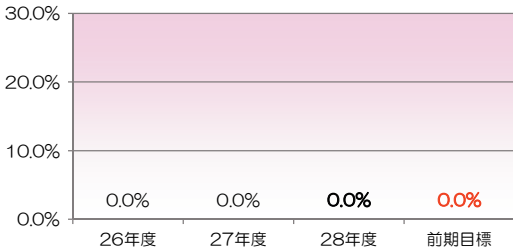


・貯水槽清掃実施率

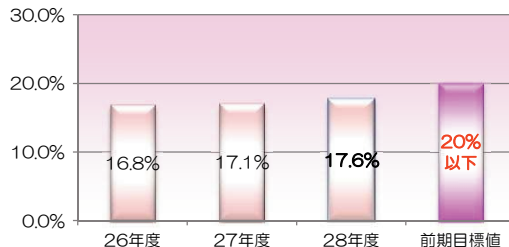


### ■強靱な施設・体制による給水の確保

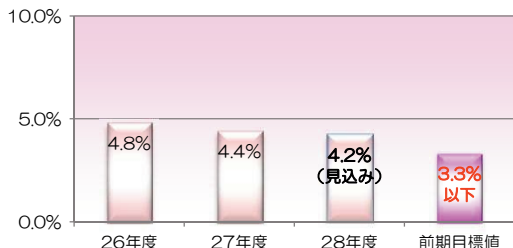
・老朽化浄水施設率



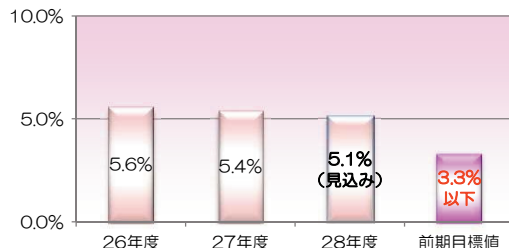
・老朽化設備率



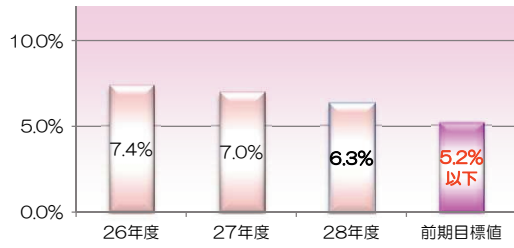
・老朽化管路率 ※1



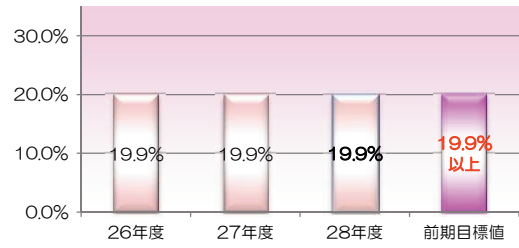
・老朽化基幹管路率 ※1



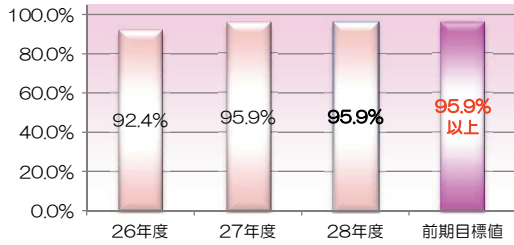
・鉛製給水管率



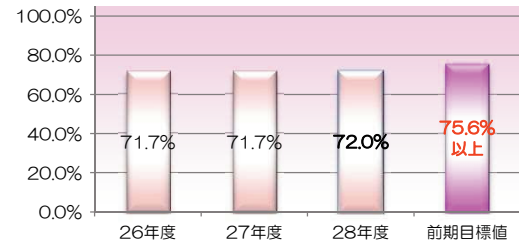
・浄水施設耐震率



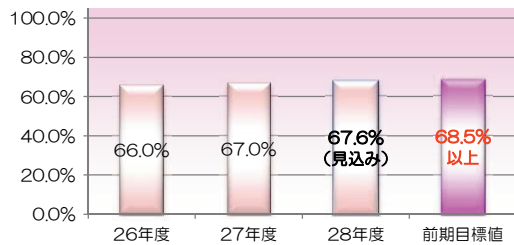
・ポンプ所耐震施設率



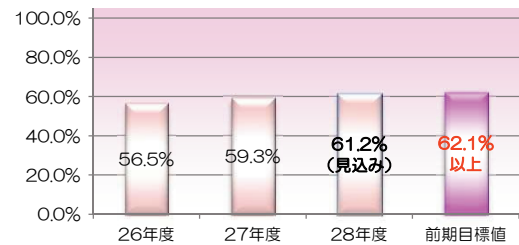
・配水池耐震施設率



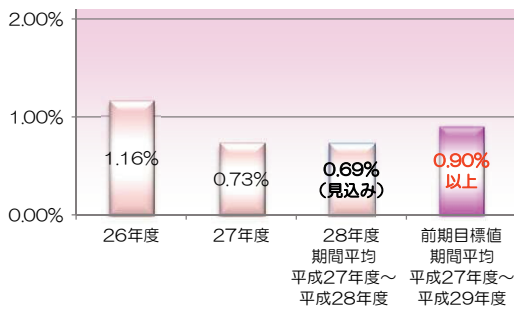
・管路耐震適合率 ※1



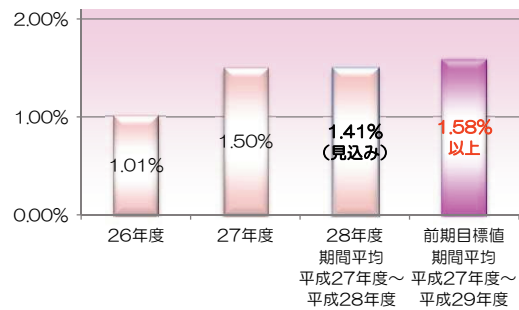
・基幹管路耐震適合率 ※1



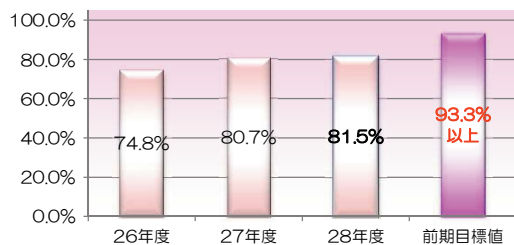
・管路更新率（期間平均） ※1 ※2



・基幹管路更新率（期間平均） ※1 ※2



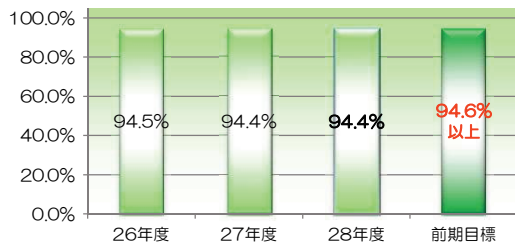
・小ブロック構築率



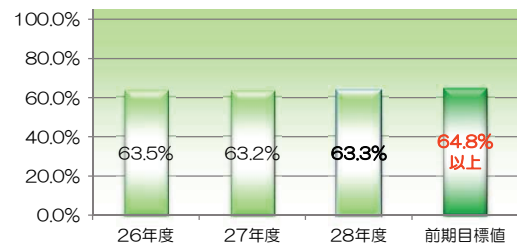
※1 算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用  
 ※2 27年度以降は、27年度から各期末までの管路更新率(管路更新延長/管路総延長)平均値。

## ■環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

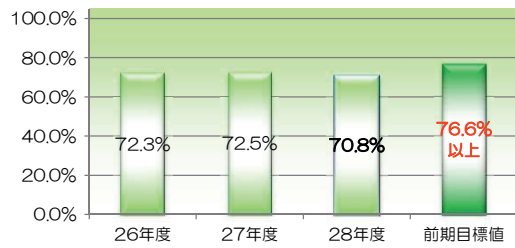
### ・有収率



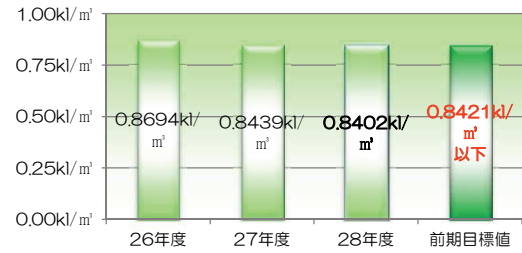
### ・施設利用率



### ・施設最大稼働率



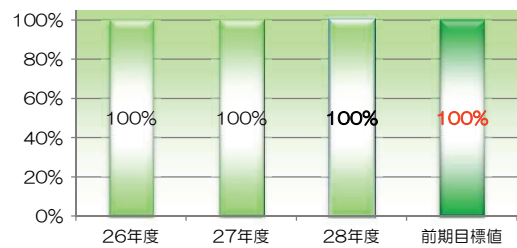
### ・エネルギー原単位



### ・再生可能エネルギー利用率



### ・浄水発生土の有効利用率



### ・内部研修実施時間

